

2016/10/20

柏の景気情報（平成28年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成28年9月分）

○ 調査期間 : 平成28年9月26日 ~ 平成28年10月11日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	75	48.1%
建設	44	18	40.9%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	24	55.8%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年9月の調査結果のポイント】

◀業況DIはやや改善も、先行きは懸念材料多く、慎重な見方が続く。▶

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.0(前月水準▲33.7)となり、マイナス幅が13.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種はサービス業△13.3(同▲21.4)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲65.2)、製造業▲16.6(同▲23.5)、建設業▲11.1(同▲17.3)であり、特に卸小売業ではマイナス幅が15.2ポイント縮小した。

【建設業】からは、「消費者それぞれの生き方に合ったライフスタイルを求めている傾向が強く、それに合ったリフォーム相談が増えている。」(一般土木建築工事業)、「8月からの雨で工程通りに仕事が進まず、引渡しが出来ない物件が出ており、9月は売上増加の見込みだったが減少に転じた。施工方法によっては、雨の日やその前後も施工できない事もあり、人手不足が確実となる。施工現場の近隣とのトラブル防止や時間外作業禁止の為、施工出来る日も限定され、人手不足解消の方法が無い状態。」(その他の職別工事業)、「9月は当社の決算月で、1年を振り返ってみると、売上高は上がっているものの、経常利益ベースではあまり芳しくない。縁なし畳の注文が増えているが、縁有りと比べて手間がかかるのが課題。」(内装工事業)、「今まではそこそこ昇り調子であったが、取り巻く状況が悪化したように感じる。企業の生き残りの選別が厳しくなり、創意工夫が功を奏さない事が多くなりつつある。本物の創意工夫であり、本気の努力をする企業だけが生き残れる時代になったと感じている。」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「受注は回復しているものの、年度当初の受注の少なさの影響により売上、採算は回復せず。そろそろ受注の回復が売上、採算に反映されることに期待したい。設備のライン案件の受注が増加傾向にあるが、難易度が高く品作りが多いため利益確保に苦慮している。」(その他の機械・同部品製造業)、「ノー残業デーが多くなり、従業員の給与などの経費が削減されているが、売上が減少している中で、主に大企業からの単価の引き下げ要求がある。」(その他の金属製品製造業)、「時代の変化により必要とされない企業も出てきている。人口減少と共に経済も縮小せざるを得ず、守りの姿勢が強くなってきている。だからこそ長期的展望の目が必要だと感じられる。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「柏北部のショッピングモールの空きテナントが増加している。」(書籍・文房具小売業)、「9月末に閉店するそごう柏店の跡地がまだ決まっていないため、地域経済の停滞が懸念される。」(各種食料品小売業)、「9月の後半はそごう柏店の閉店セールの影響により、柏駅前には人が多かったが、売上、集客には影響は無かった。」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「昨年9月のシルバーウィークは低調だったが、本年は急遽宴会予約が入るなど、売上が増加した。景気の良い会社が柏にもいくつかあるのだと感じた。また、年末の宴会予約も開始した。」(酒場・ビヤホール)、「国内は「ふっこう割」で九州が人気。9月は悪天候のため間際申し込みが低調。オバマ大統領効果で広島と宮島、サミット効果で伊勢志摩、大河ドラマ真田丸関係で信州など、世界遺産や話題になったスポットが人気。海外は台湾、シンガポール、ハワイが人気。ハワイ島直行便就航もあり、ハワイの離島が人気。法人需要は、次年度予算策定を見据えた見積り依頼が、自治体・企業ともに増えている。職場旅行において、観光・宴会のみならず、団結を強くする・深めるためのプログラム(チームビルディングなど)を組み込む企業が増えている。」(旅行業)、「相続物件や空き家物件の買取り依頼等が増えている。問い合わせ件数は堅調だが契約までの期間が長く、価格交渉も厳しくなっている。」(不動産管理業)、「TX沿線市街地の開発の進捗に伴い、人の往來の増加を感じている。チェーン店が多く、地元の個性ある店舗が少ないので、その街独特の味が薄い。今後の発展に期待したい。」(不動産賃貸・管理業)、「本年度も下期に入り、今は上期の活動改修時期だが、今年は特に設備投資が低迷している印象を受ける。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎そごう柏店閉店

各業種より、「天候不順とそごう柏店の閉店セールが影響し、9月の売上が過去最低を記録した。秋物の出足は最悪で、在庫をかなり残しそうな気配。」(婦人・子供服小売業)、「そごう柏店の閉店セールが始まり、好調であった衣料品も売上が下降となった。特に婦人、紳士衣料の影響があった。肌着は好調に推移している。台風と雨が多かった事もあり、店舗全体の客数が昨年比85%と減少。」(その他の各種商品小売業)、「そごう閉店セールの影響により、入館客数は伸長したものの売上には繋がらず。そごう閉店後の影響は不透明。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「天候不順による工期の遅れがある。何事にも予算が厳しく、今後の景気回復に期待したい。」(電気工事業)、「天候不順のため、工期がかなり遅れたが、今後の先行きについては良好になると思われる。」(塗装工事業)、「9月は台風や長雨の影響で客足が鈍った。」(菓子・パン小売業)、「9月は台風や曇雨天の日照不足によって、青果物の生育に影響している。今後は秋晴れの天候を期待するとともに、秋の行楽シーズンに消費拡大を期待したい。今後も、安定供給と生活者のニーズに応えられるように努力したい。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰(農水産物)

各業種より、「食料品は前月同様伸び悩み、野菜は価格高騰している。」(その他の各種商品小売業)、「野菜の高騰が経営に響き、特にじゃがいも、たまねぎ、にんじん、レタスなど全体的に価格が高騰している。」(菓子・パン小売業)、「天候不順で商品の卸値は高騰し、雨続きで客足は減少。駅周辺もそごう柏店の閉店でどのような影響を及ぼすのか、先行きは不安な状況。」(花・植木小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲26.4	△5.8	▲37.5	▲54.1	±0.0
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
見通し	▲13.3	▲11.1	▲5.5	▲33.3	△6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年9月の業況についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.0(前月水準▲33.7)となり、マイナス幅が13.7ポイント縮小した。

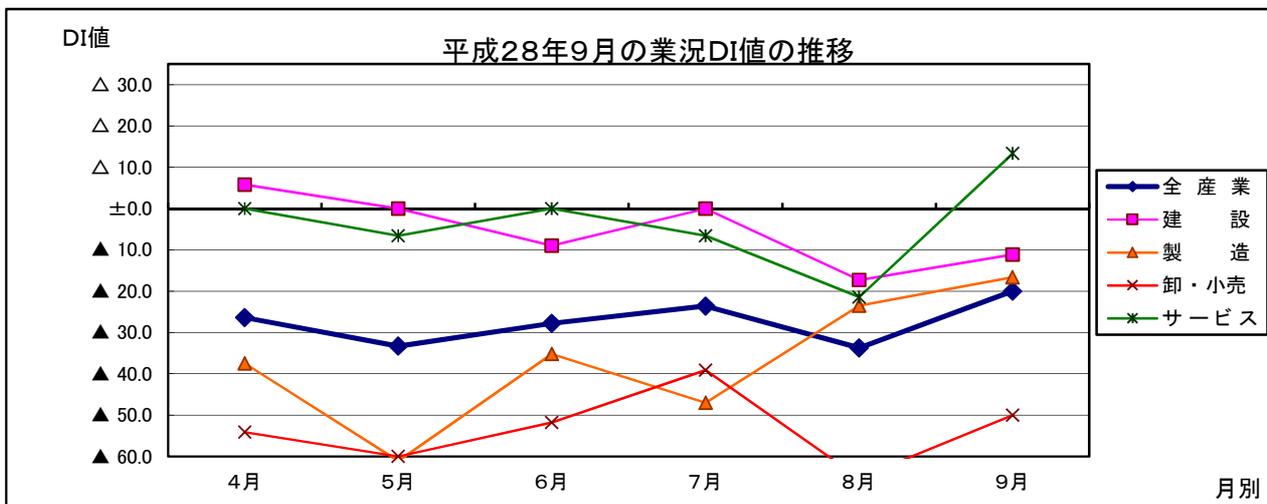
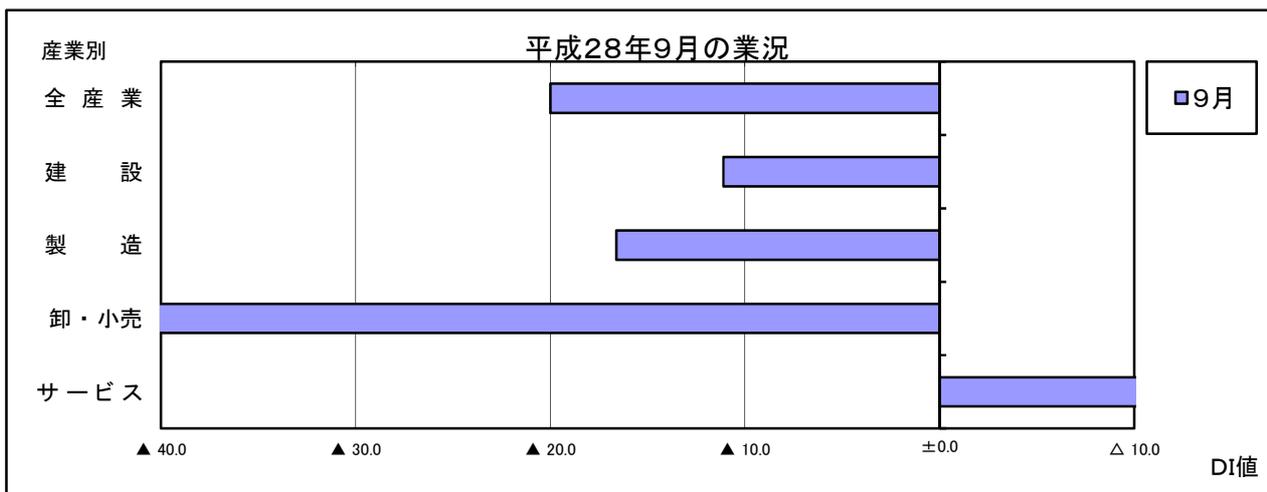
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種はサービス業△13.3(同▲21.4)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲65.2)、製造業▲16.6(同▲23.5)、建設業▲11.1(同▲17.3)であり、特に卸小売業ではマイナス幅が15.2ポイント縮小した。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.3(前月水準▲11.6)となり、マイナス幅が1.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲39.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.5(同△5.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲11.1(同▲4.3)である。

平成28年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲26.4	▲33.3	▲27.8	▲23.6	▲33.7	▲20.0	▲13.3(▲11.6)
建設	△5.8	±0.0	▲9.0	±0.0	▲17.3	▲11.1	▲11.1(▲4.3)
製造	▲37.5	▲61.1	▲35.2	▲47.0	▲23.5	▲16.6	▲5.5(△5.8)
卸・小売	▲54.1	▲60.0	▲51.8	▲39.1	▲65.2	▲50.0	▲33.3(▲39.1)
サービス	±0.0	▲6.6	±0.0	▲6.6	▲21.4	△13.3	△6.6(±0.0)



【平成28年9月の売上についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.6(同▲28.5)であり、マイナス幅が4.9ポイント拡大した。

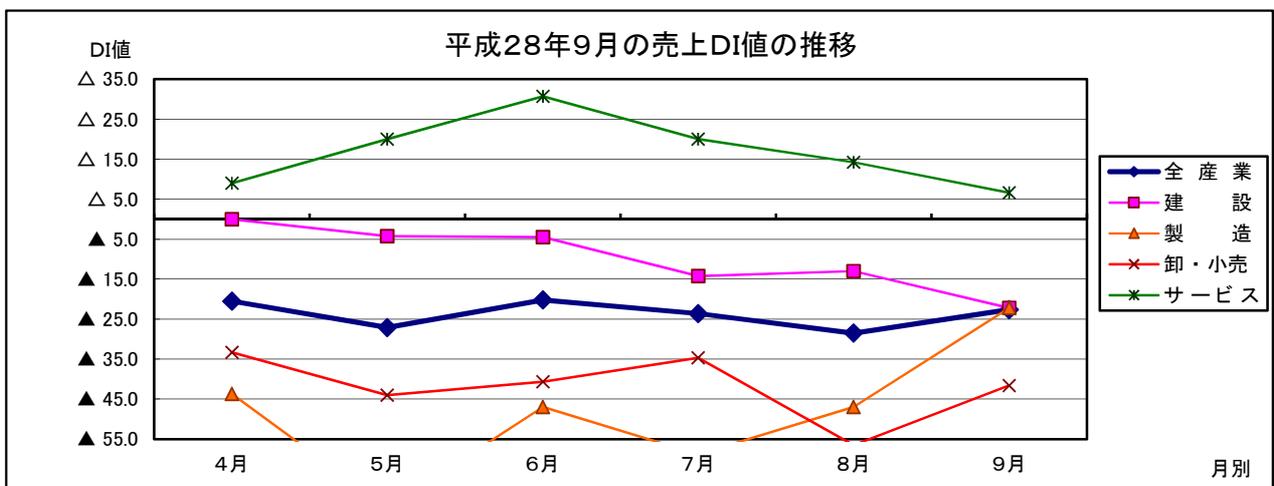
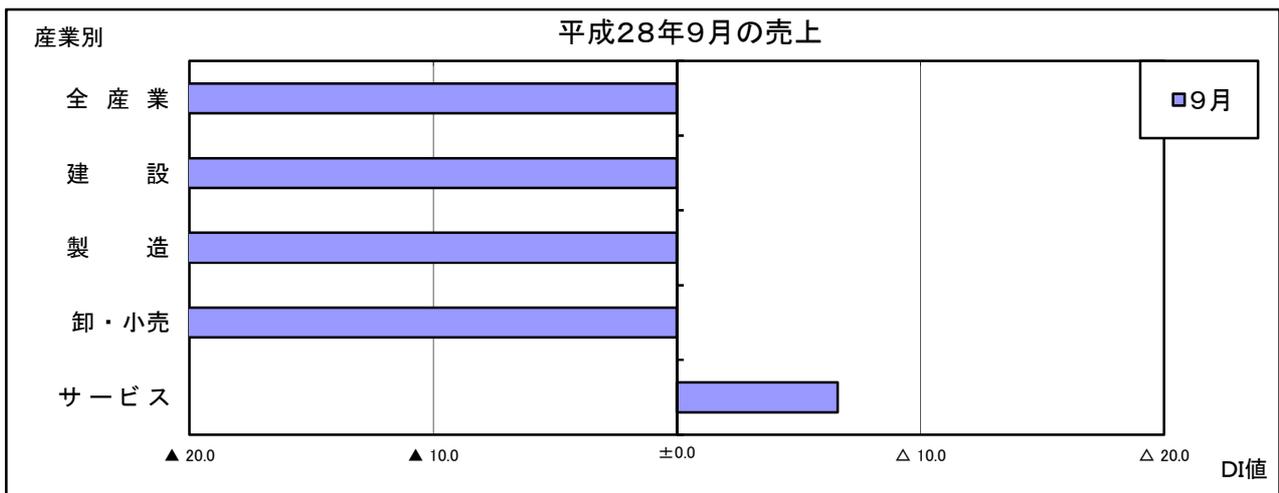
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲47.0)、卸小売業▲41.6(同▲56.5)であり、特に製造業ではマイナス幅が24.8ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△6.6(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲22.2(同▲13.0)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.6(前月水準▲2.5)となり、マイナス幅が4.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲20.8(同▲39.1)である。プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△20.0(同△35.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.5(同△11.7)、建設業▲11.1(同±0.0)である。

平成28年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲20.5	▲27.1	▲20.2	▲23.6	▲28.5	▲22.6	▲6.6(▲2.5)
建設	±0.0	▲4.3	▲4.5	▲14.2	▲13.0	▲22.2	▲11.1(±0.0)
製造	▲43.7	▲72.2	▲47.0	▲58.8	▲47.0	▲22.2	▲5.5(△11.7)
卸・小売	▲33.3	▲44.0	▲40.7	▲34.7	▲56.5	▲41.6	▲20.8(▲39.1)
サービス	△9.0	△20.0	△30.7	△20.0	△14.2	△6.6	△20.0(△35.7)



【平成28年9月の採算についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.0(前月水準▲33.7)となり、マイナス幅が9.7ポイント縮小した。

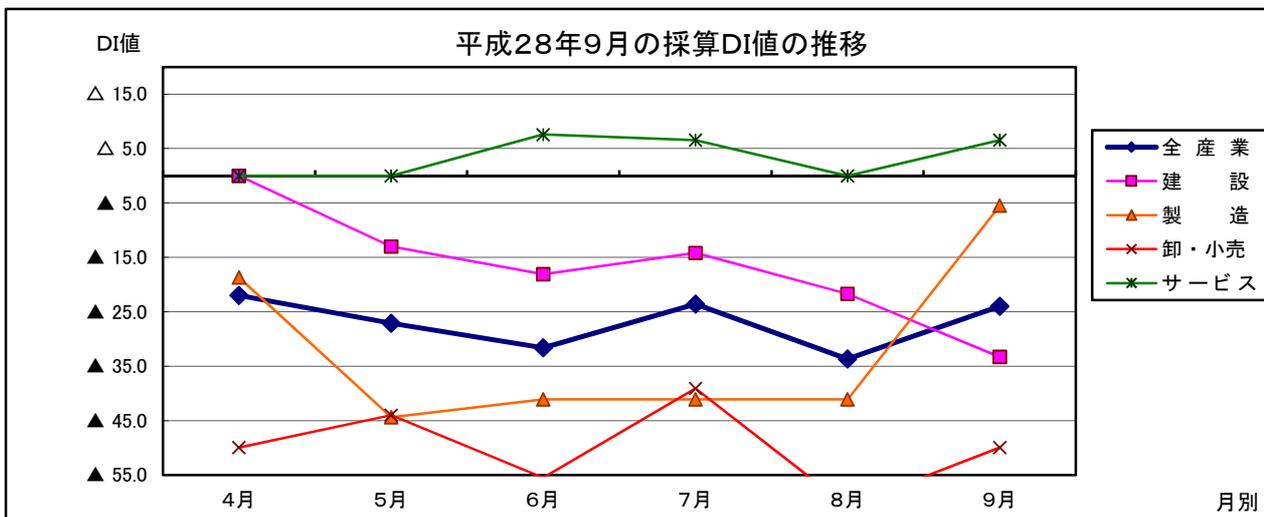
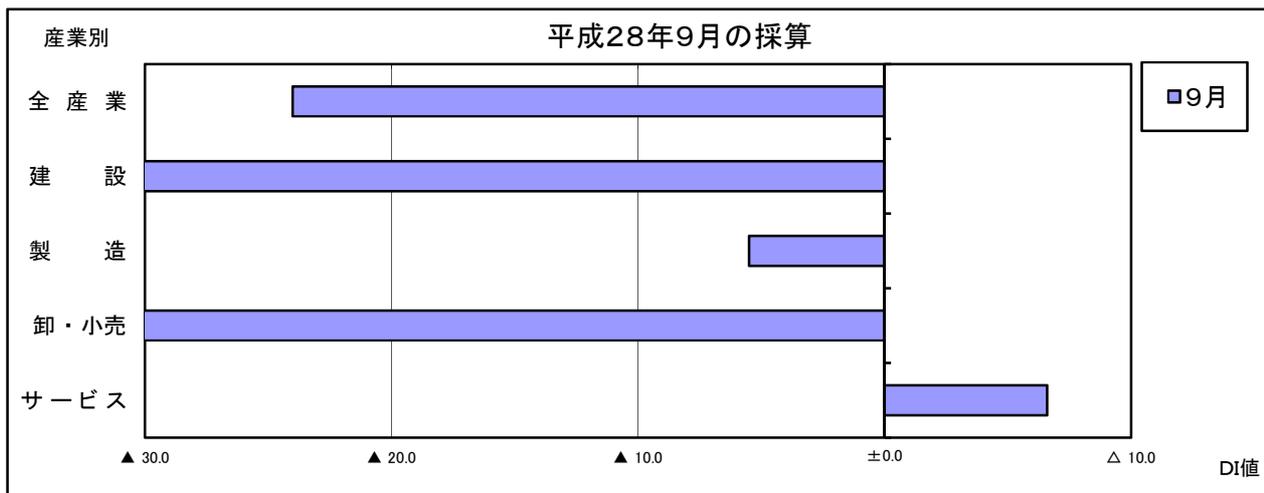
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.5(同▲41.1)、卸小売業▲50.0(同▲60.8)であり、特に製造業ではマイナス幅が35.6ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲33.3(同▲21.7)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.6(前月水準▲11.6)であり、マイナス幅が3.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲37.5(同▲47.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△20.0(同△28.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲11.1(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲16.6(同▲8.6)である。

平成28年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲22.0	▲27.1	▲31.6	▲23.6	▲33.7	▲24.0	▲14.6(▲11.6)
建設	±0.0	▲13.0	▲18.1	▲14.2	▲21.7	▲33.3	▲16.6(▲8.6)
製造	▲18.7	▲44.4	▲41.1	▲41.1	▲41.1	▲5.5	▲11.1(±0.0)
卸・小売	▲50.0	▲44.0	▲55.5	▲39.1	▲60.8	▲50.0	▲37.5(▲47.8)
サービス	±0.0	±0.0	△7.6	△6.6	±0.0	△6.6	△20.0(△28.5)



【平成28年9月の仕入単価についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲19.4)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小した。

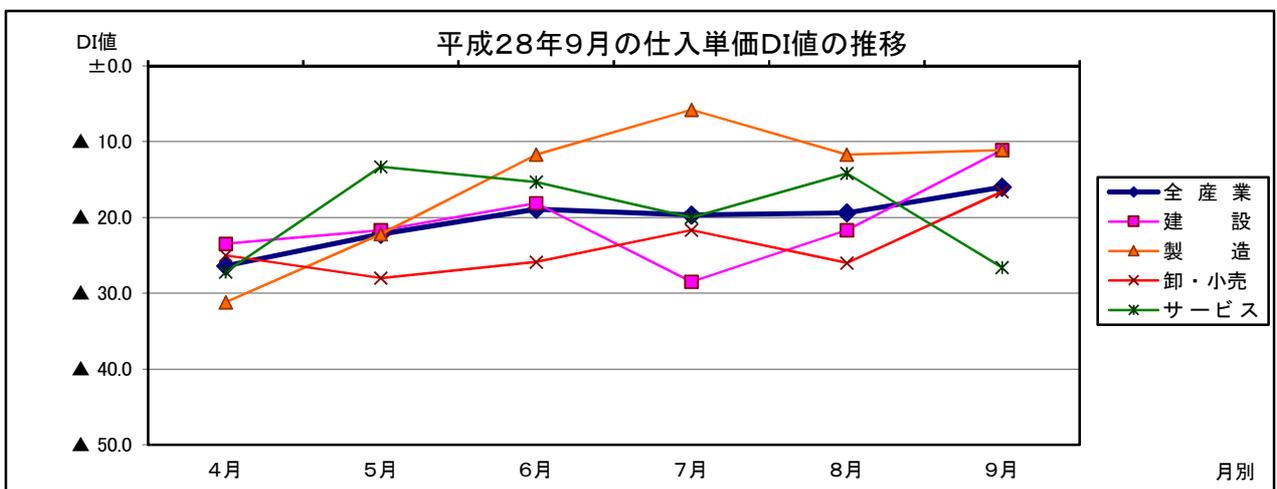
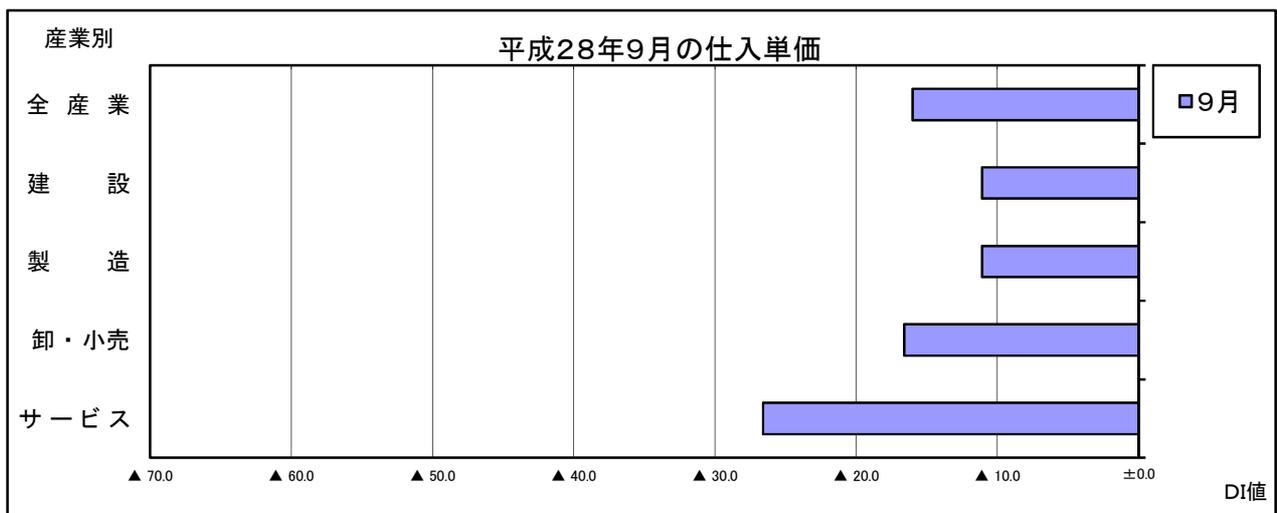
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲11.1(同▲21.7)、卸小売業▲16.6(同▲26.0)、製造業▲11.1(同▲11.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲26.6(同▲14.2)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.3(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が3.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲20.8(同▲26.0)、建設業▲11.1(同▲13.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲16.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲20.0(同▲14.2)である。

平成28年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲26.4	▲22.2	▲18.9	▲19.7	▲19.4	▲16.0	▲17.3(▲14.2)
建設	▲23.5	▲21.7	▲18.1	▲28.5	▲21.7	▲11.1	▲11.1(▲13.0)
製造	▲31.2	▲22.2	▲11.7	▲5.8	▲11.7	▲11.1	▲16.6(±0.0)
卸・小売	▲25.0	▲28.0	▲25.9	▲21.7	▲26.0	▲16.6	▲20.8(▲26.0)
サービス	▲27.2	▲13.3	▲15.3	▲20.0	▲14.2	▲26.6	▲20.0(▲14.2)



【平成28年9月の従業員についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△9.3(前月水準△7.7)となり、プラス幅が1.6ポイント拡大した。

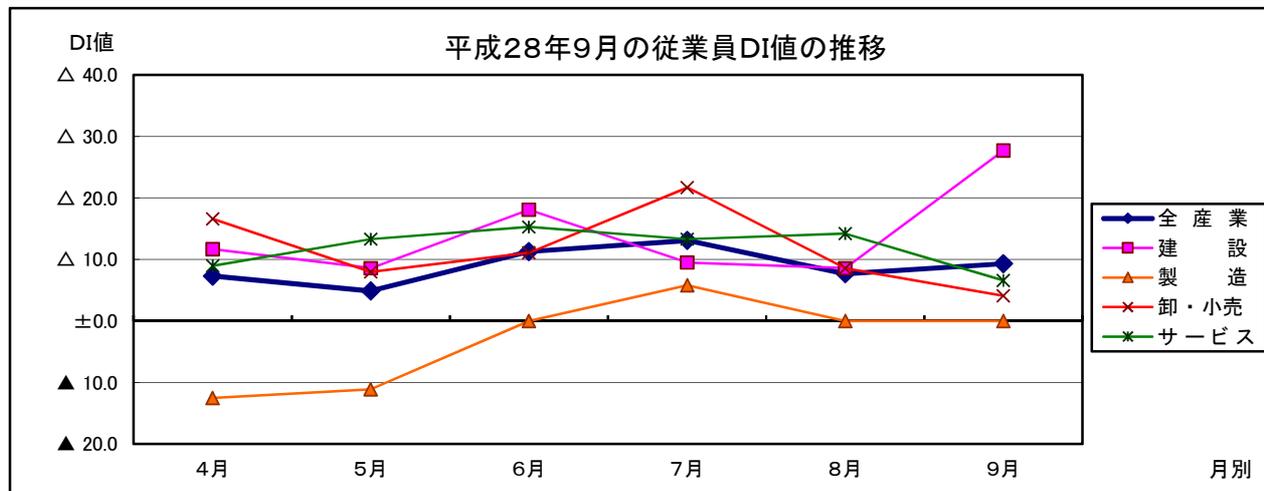
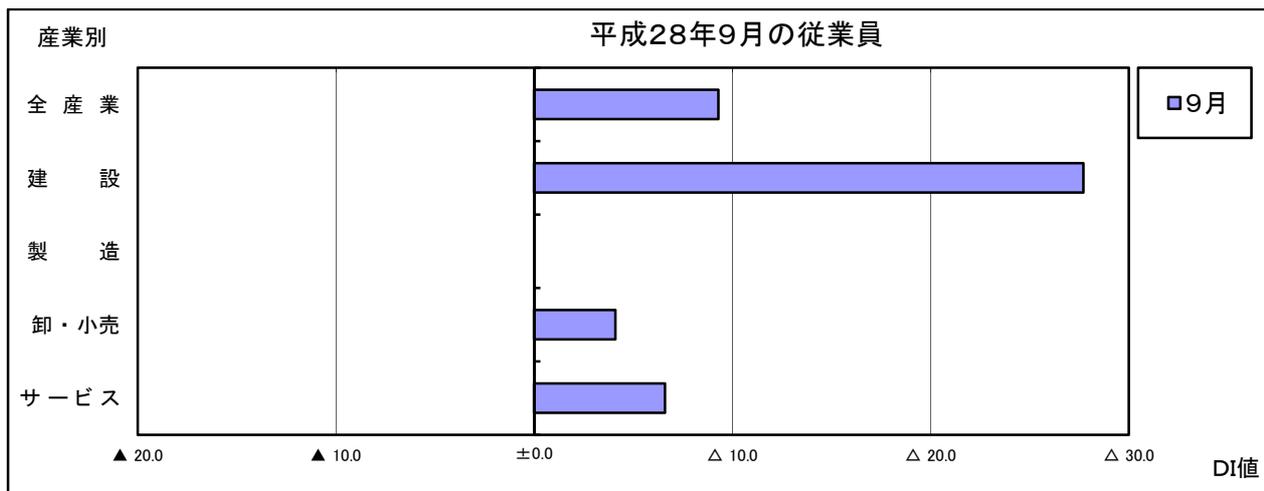
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△27.7(同△8.6)である。変わらない業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△6.6(同△14.2)、卸小売業△4.1(同△8.6)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△10.6(前月水準△12.9)であり、プラス幅が2.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△22.2(同△17.3)、卸小売業△8.3(同△4.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△6.6(同△28.5)、製造業△5.5(同△5.8)であり、特にサービス業ではプラス幅が21.9ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成28年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	△7.3	△4.9	△11.3	△13.1	△7.7	△9.3	△10.6(△12.9)
建設	△11.7	△8.6	△18.1	△9.5	△8.6	△27.7	△22.2(△17.3)
製造	▲12.5	▲11.1	±0.0	△5.8	±0.0	±0.0	△5.5(△5.8)
卸・小売	△16.6	△8.0	△11.1	△21.7	△8.6	△4.1	△8.3(△4.3)
サービス	△9.0	△13.3	△15.3	△13.3	△14.2	△6.6	△6.6(△28.5)



【平成28年9月の資金繰りについての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.3(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が8.9ポイント縮小した。

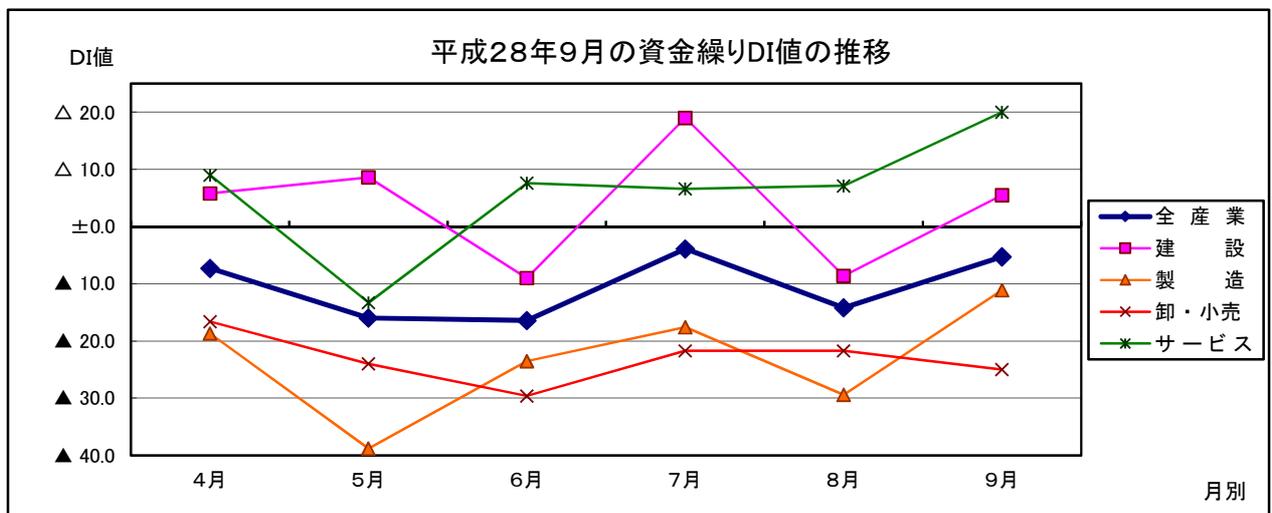
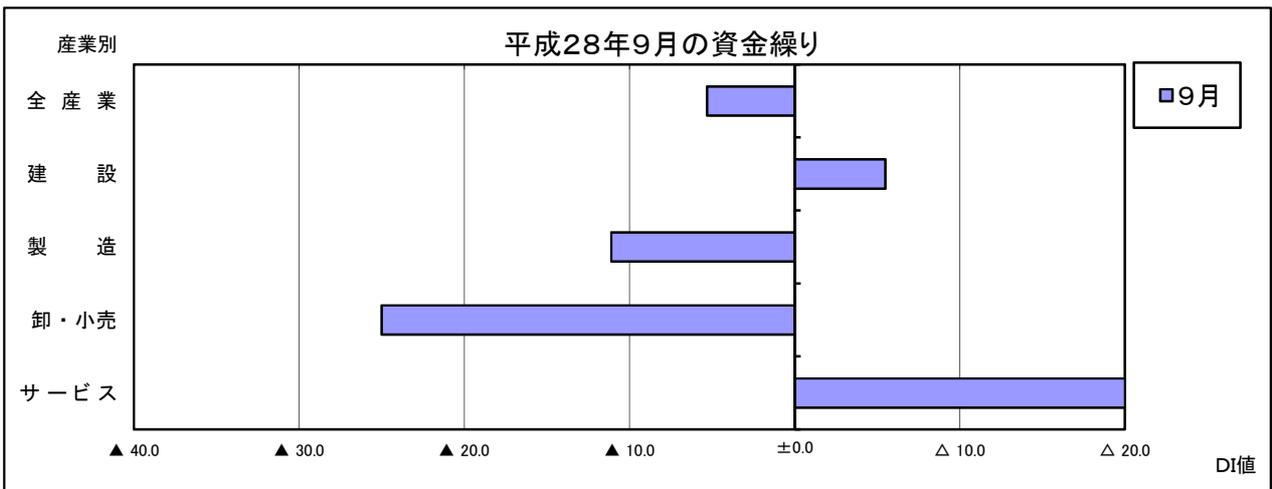
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△5.5(同▲8.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲29.4)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△20.0(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲25.0(同▲21.7)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.3(前月水準▲6.4)となり、マイナス幅が0.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△13.3(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲16.6(同▲21.7)である。変わらない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲11.1(同±0.0)である。建設業±0.0(同△19.0)である。

平成28年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲7.3	▲16.0	▲16.4	▲3.9	▲14.2	▲5.3	▲5.3(▲6.4)
建設	△5.8	△8.6	▲9.0	△19.0	▲8.6	△5.5	±0.0(±0.0)
製造	▲18.7	▲38.8	▲23.5	▲17.6	▲29.4	▲11.1	▲11.1(±0.0)
卸・小売	▲16.6	▲24.0	▲29.6	▲21.7	▲21.7	▲25.0	▲16.6(▲21.7)
サービス	△9.0	▲13.3	△7.6	△6.6	△7.1	△20.0	△13.3(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.6	▲ 6.6	▲ 24.0	▲ 14.6	▲ 16.0	▲ 17.3	△ 9.3	△ 10.6
建設	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 11.1	▲ 11.1	△ 27.7	△ 22.2
製造	▲ 22.2	▲ 5.5	▲ 5.5	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 16.6	±0.0	△ 5.5
卸・小売	▲ 41.6	▲ 20.8	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 16.6	▲ 20.8	△ 4.1	△ 8.3
サービス	△ 6.6	△ 20.0	△ 6.6	△ 20.0	▲ 26.6	▲ 20.0	△ 6.6	△ 6.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.0	▲ 13.3	▲ 5.3	▲ 5.3
建設	▲ 11.1	▲ 11.1	△ 5.5	±0.0
製造	▲ 16.6	▲ 5.5	▲ 11.1	▲ 11.1
卸・小売	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 16.6
サービス	△ 13.3	△ 6.6	△ 20.0	△ 13.3

【平成28年9月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	消費者それぞれの生き方に合ったライフスタイルを求めている傾向が強く、それに合ったリフォーム相談が増えている。	消費者志向	一般土木建築工事業
	8月からの雨で工程通りに仕事が進まず、引渡しが出来ない物件が出ており、9月は売上増加の見込みだったが減少に転じた。施工方法によっては、雨の日やその前後も施工できない事もあり、人手不足が確実となる。施工現場の近隣とのトラブル防止や時間外作業禁止の為、施工出来る日も限定され、人手不足解消の方法が無い状態。	天候不順 売上減少 人手不足	その他の職別工事業
	天候不順による工期の遅れがある。何事にも予算が厳しく、今後の景気回復に期待したい。	天候不順	電気工事業
	天候不良のため、工期がかなり遅れたが、今後の先行きについては良好になると思われる。	天候不順	塗装工事業
	9月は当社の決算月で、1年を振り返ってみると、売上高は上がっているものの、経常利益ベースではあまり芳しくない。縁なし畳の注文が増えているが、縁有りと比べて手間がかかるのが課題。	売上増加 利益減少	内装工事業
今まではそこそこ昇り調子であったが、取り巻く状況が悪化したように感じる。企業の生き残りの選別が厳しくなり、創意工夫が功を奏さない事が多くなりつつある。本物の創意工夫であり、本気の努力をする企業だけが生き残れる時代になったと感じている。	先行き不安	一般土木建築工事業	
製造業	受注は回復しているものの、年度当初の受注の少なさの影響により売上、採算は回復せず。そろそろ受注の回復が売上、採算に反映されることに期待したい。設備のライン案件の受注が増加傾向にあるが、難易度が高く1品作りが多いため利益確保に苦慮している。	受注回復	その他の機械・同部品製造業
	ノー残業デーが多くなり、従業員の給与などの経費が削減されているが、売上が減少している中で、主に大企業からの単価の引き下げ要求がある。	経費削減 売上減少 単価引き下げ要求	その他の金属製品製造業
	時代の変化により必要とされない企業も出てきている。人口減少と共に経済も縮小せざるを得ず、守りの姿勢が強くなってきている。だからこそ長期的展望の目が必要だと感じられる。		印刷業
卸小売	天候不順とそごう柏店の閉店セールが影響し、9月の売上が過去最低を記録した。秋物の出足は最悪で、在庫をかなり残しそうな気配。	天候不順 そごう閉店	婦人・子供服小売業
	そごう柏店の閉店セールが始まり、好調であった衣料品も売上が下降となった。特に婦人、紳士衣料の影響があった。肌着は好調に推移している。台風と雨が多かった事もあり、店舗全体の客数が昨年比85%と減少。食料品は前月同様伸び悩み、野菜は価格高騰している。	そごう閉店 天候不順 秋物衣料不調 価格高騰(野菜)	その他の各種商品小売業
	柏北部のショッピングモールの空きテナントが増加している。	空き店舗(テナント)増加	書籍・文房具小売業
	そごう閉店セールの影響により、入館客数は伸長したものの売上には繋がらず。そごう閉店後の影響は不透明。	そごう閉店 先行き不安	その他の各種商品小売業
	9月末に閉店するそごう柏店の跡地がまだ決まっていないため、地域経済の停滞が懸念される。	そごう閉店 先行き不安	各種食料品小売業
	9月の後半はそごう柏店の閉店セールの影響により、駅前には人が多かったが、売上、集客には影響は無かった。野菜の高騰が経営に響き、特にじゃがいも、たまねぎ、にんじん、レタスなど全体的に価格が高騰している。	そごう閉店 価格高騰(野菜)	菓子・パン小売業
	9月は台風や長雨の影響で客足が鈍った。	天候不順	菓子・パン小売業
	9月は台風や曇雨天の日照不足によって、青果物の生育に影響している。今後は秋晴れの天候を期待するとともに、秋の行楽シーズンに消費拡大を期待したい。今後も、安定供給と生活者のニーズに応えられるように努力したい。	天候不順	食料・飲料卸売業
天候不順で商品の卸値は高騰し、雨続きで客足は減少。駅周辺もそごう柏店の閉店でどのような影響を及ぼすのか、先行きは不安な状況。	天候不順 価格高騰	花・植木小売業	
サービス業	昨年9月のシルバーウィークは低調だったが、本年は急遽宴会予約が入るなど、売上が増加した。景気の良い会社が柏にもいくつかあるのだと感じた。また、年末の宴会予約も開始した。	売上増加	酒場・ビヤホール
	国内は「ふっこう割」で九州が人気。9月は悪天候のため間際申し込みが低調。オバマ大統領効果で広島と宮島、サミット効果で伊勢志摩、大河ドラマ真田丸関係で信州など、世界遺産や話題になったスポットが人気。海外は台湾、シンガポール、ハワイが人気。ハワイ島直行便就航もあり、ハワイの離島が人気。法人需要は、次年度予算策定を見据えた見積り依頼が、自治体・企業ともに増えている。職場旅行において、観光・宴会のみならず、団結を強くする・深めるためのプログラム(チームビルディングなど)を組み込む企業が増えている。	天候不順 需要増加(旅行)	旅行業
	相続物件や空き家物件の買取り依頼等が増えている。問い合わせ件数は堅調だが契約までの期間が長く、価格交渉も厳しくなっている。		不動産管理業
	そごう柏店の閉店により、その他の個店が必死に努力している中で、柏駅周辺の景気がすべて悪いという印象を与えてしまう事が懸念される。	そごう閉店	不動産賃貸業
	TX沿線市街地の開発の進捗に伴い、人の往来の増加を感じている。チェーン店が多く、地元の個性ある店舗が少ないので、その街独特の味が薄い。今後の発展に期待したい。		不動産賃貸・管理業
本年度も下期に入り、今は上期の活動改修時期だが、今年は特に設備投資が低迷している印象を受ける。	設備投資低迷	ソフトウェア業	

◎そごう柏店閉店

各業種より、「天候不順とそごう柏店の閉店セールが影響し、9月の売上が過去最低を記録した。秋物の出足は最悪で、在庫をかなり残しそうな気配。」(婦人・子供服小売業)、「そごう柏店の閉店セールが始まり、好調であった衣料品も売上が下降となった。特に婦人、紳士衣料の影響があった。肌着は好調に推移している。台風と雨が多かった事もあり、店舗全体の客数が昨年比85%と減少。」(その他の各種商品小売業)、「そごう閉店セールの影響により、入館客数は伸長したものの売上には繋がらず。そごう閉店後の影響は不透明。」(その他の各種商品小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「天候不順による工期の遅れがある。何事にも予算が厳しく、今後の景気回復に期待したい。」(電気工事業)、「天候不良のため、工期がかなり遅れたが、今後の先行きについては良好になると思われる。」(塗装工事業)、「9月は台風や長雨の影響で客足が鈍った。」(菓子・パン小売業)、「9月は台風や曇雨天の日照不足によって、青果物の生育に影響している。今後は秋晴れの天候を期待するとともに、秋の行楽シーズンに消費拡大を期待したい。今後も、安定供給と生活者のニーズに応えられるように努力したい。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰(農水産物)

各業種より、「食料品は前月同様伸び悩み、野菜は価格高騰している。」(その他の各種商品小売業)、「野菜の高騰が経営に響き、特にじゃがいも、たまねぎ、にんじん、レタスなど全体的に価格が高騰している。」(菓子・パン小売業)、「天候不順で商品の卸値は高騰し、雨続きで客足は減少。駅周辺もそごう柏店の閉店でどのような影響を及ぼすのか、先行きは不安な状況。」(花・植木小売業)などのコメントが寄せられた。

平成28年9月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.0に対し、「CCI-LOBO」が▲27.8で柏の方がマイナス幅が7.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業、製造業、建設業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.6に対し、「CCI-LOBO」が▲25.3で柏の方がマイナス幅が2.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.0に対し、「CCI-LOBO」が▲22.2で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.0に対し、「CCI-LOBO」が▲20.1で柏の方がマイナス幅が4.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。「柏の景気」と同じ業種は、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△7.7に対し、「CCI-LOBO」が△17.1で柏の方がプラス幅が9.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業で、卸小売業とサービス業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.3に対し、「CCI-LOBO」が▲13.2で柏の方がマイナス幅が7.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。

平成28年9月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 20.0	 ▲ 11.1	 ▲ 16.6	 ▲ 50.0	 △ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 27.8	 ▲ 16.1	 ▲ 24.7	 ▲ 43.5	 ▲ 23.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 22.6	 ▲ 22.2	 ▲ 22.2	 ▲ 41.6	 △ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 25.3	 ▲ 17.0	 ▲ 19.8	 ▲ 45.3	 ▲ 20.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 24.0	 ▲ 33.3	 ▲ 5.5	 ▲ 50.0	 △ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 22.2	 ▲ 20.9	 ▲ 15.4	 ▲ 33.5	 ▲ 20.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 16.0	 ▲ 11.1	 ▲ 11.1	 ▲ 16.6	 ▲ 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 20.1	 ▲ 18.3	 ▲ 8.3	 ▲ 25.4	 ▲ 26.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 9.3	 △ 27.7	 ±0.0	 △ 4.1	 △ 6.6
CCI-LOBO	 △ 15.7	 △ 17.8	 △ 7.5	 △ 22.6	 △ 19.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 5.3	 △ 5.5	 ▲ 11.1	 ▲ 25.0	 △ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 13.2	 ▲ 10.4	 ▲ 9.7	 ▲ 21.8	 ▲ 14.4

は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(9月の調査結果のポイント)

調査期間：平成28年9月26日～10月11日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数75件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲26.4	△5.8	▲37.5	▲54.1	±0.0
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
見通し	▲13.3	▲11.1	▲5.5	▲33.3	△6.6

「見通し」は今年の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「柏市」の業況

業況D Iはやや改善も、先行きは懸念材料多く、慎重な見方が続く。

9月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲20.0(前月水準▲33.7)となり、マイナス幅が13.7ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種はサービス業▲13.3(同▲21.4)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲65.2)、製造業▲16.6(同▲23.5)、建設業▲11.1(同▲17.3)、サービス▲6.6(同▲21.4)である。

であり、特に卸小売業ではマイナス幅が15.2ポイント縮小した。

【建設業】からは、「消費者それぞれのライフスタイルに合ったリフォーム相談が増えている。」(一般土木建築工事業)、「雨で工程通りに進まず、9月は売上減少に転じた。雨の日やその前後も施工できない事もあり、人手不足解消の方法が無い状態。」(その他の職別工事業)、「売上高は上がっているが利益は減少、縁なし畳の注文が増えているが、縁有りと比べて手間がかかるのが課題。」(内装工事業)、「企業の生き残りの選別が厳しくなり、本物の創意工夫、本気の努力をする企業だけが生き残れる時代になったと感じている。」(一般土木建築工事業などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「受注は回復しているものの、年度当初の受注の少なさの影響により売上、採算は回復せず。設備のライン案件の受注が増加傾向にあるが、難易度が高くて1品作りが多いため利益確保に苦慮している。」

(その他の機械・同部品製造業)、「ノー残業デーが多くなり、従業員の給与などの経費が削減されているが、売上が減少している中で、主に大企業からの単価引下げ要求

がある。」(その他の金属製品製造業)、「時代の変化により必要とされない企業も出てきており、長期的展望の目が必要だと感じられる。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「柏北部のS Cの空きテナントが増加している。」(書籍・文房具小売業)、「9月末に閉店するところ柏店の跡地がまだ決まっていないため、地域経済の停滞が懸念される。」(各種食料品小売業)、「9月の後半はそ

ごう柏店の閉店セールの影響により、柏駅前前は人が多かつたが、売上、集客には影響は無かった。」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「昨年9月のシルバークは低調だったが、今年は宴会予約が増え、売上が増加した。」(酒場・ビヤホール)、「国内は「ふっこう割」で九州が人気。9月は悪天候のため低調。海外は台湾、シンガポール、ハワイが人気。職場旅行において、チームビルディングなどを組み込む企業が増えている。」(旅行業)、「相続物件や空き家物件の買取り依頼等が増えている。問い合わせ件数は堅調だが契約までの期間が長く、価格交渉も厳しくなっ

てきている。」(不動産管理業)、「T X沿線市街地の開発の進捗に伴い、人の往来が増え、今後の発展に期待したい。」(不動産賃貸・管理業)、「今年には特に設備投資が低迷している印象を受ける。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

【9月の景気キーワード】
◎「柏市」の業況

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (9月速報)

調査期間：平成28年9月14日～21日

調査対象：全国の423商工会議所が2985企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、天候要因などもあり悪化。先行き持ち直し見込むも、慎重な見方

9月の全産業合計の業況DIは、▲27.8と、前月から▲2.9ポイントの悪化。住宅など民間工事の持ち直しに加え、円高などにより原材料価格が下落する一方で、台風や豪雨の影響が大きくなり、食料品などの製造業や小売業、サービス業で広く業況の押し下げ要因となった。また、個人消費の鈍い動きのほか、慢性的な人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇などが足かせとなり、中小企業の景気感は、足元で弱い動きがみられている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲23.5（今月比+4.3ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。経済対策・補正予算による公共工事の増加、個人消費の喚起に期待する声が聞かれる。他方、人手不足の影響拡大、消費低迷や円高、海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続いている。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、卸売業で改善、その他の3業種で悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事の前倒し執行が開始したことに加え、民間による設備投資の案件も多く、業況は改善した」（一般工事業）、「公共工事の単価が減少しているが、件数は増加しており、売上に変化はない。ただし、件数の増加に伴い、人手不足の影響が顕著となってきた」（管工事業）、「住宅ローン金利の低下などにより住宅着工に動きがあり、売上、採算共に前年より好転している」（建築工事業）

【卸売業】「円高が続いていることで仕入単価が下落し、採算は改善したが、取引先からの輸入品の値下げ要請が強まっていることが気がり」（化学製品卸売業）、「海水温の上昇などにより、イカやサシマの不漁が続く、売上は伸び悩んでいる。地元食材を活用した商品販売に力を入れ、乗り切りたい」（食料品卸売業）

【小売業】「個人消費の低迷が顕著で、客は必要なものしか買わず、売上は悪化した。客のニーズに合わせた品揃えが必要だと痛感する」（百貨店）、「9月前半の残暑が厳しかったこともあり、秋物衣料の動きが鈍く、売上は悪化した」（商店街）、「インバウンドの客数は減少傾向にあるものの、肌の乾燥を防ぐ保湿関係商品を中心に売れ行きは良く、売上、採算とも改善している」（化粧品小売業）

【製造業】「台風による水害の影響で北海道産の農産物価格が上昇している。また、必要な仕入れ量を確保できないことも問題」（食料品製造業）、「売上が前年度の水準に回復していないにもかかわらず、最低賃金の引き上げと取引先からのコストダウン要請が重なり、重苦しい業況感を払拭できない」（電子応用装置製造業）

【サービス業】「マイナス金利政策の影響もあり、収益の悪化した銀行がシステムにかける経費を減少させている。それに伴い、当社の売上も悪化した」（ソフトウェア業）、「地元でイベントが多かったことに加え、地元プロ野球チームの優勝で客室の稼働率は

高水準が続いた」（旅館業）、「台風や天候不順の影響で魚や野菜の価格が軒並み高く、採算が悪化した」（レストラン）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲21.0	▲18.8	▲16.2	▲31.3	▲32.0	▲12.7
5月	▲22.8	▲21.0	▲13.2	▲25.1	▲36.2	▲20.4
6月	▲24.8	▲22.5	▲22.1	▲30.4	▲39.9	▲12.5
7月	▲24.5	▲22.6	▲20.8	▲27.5	▲37.2	▲16.9
8月	▲24.9	▲17.8	▲20.2	▲33.1	▲38.2	▲18.9
9月	▲27.8	▲16.1	▲24.7	▲27.7	▲43.5	▲23.8
見通し	▲23.5	▲14.9	▲18.0	▲24.7	▲38.9	▲19.9